

平山郁夫シルクロード美術館 News

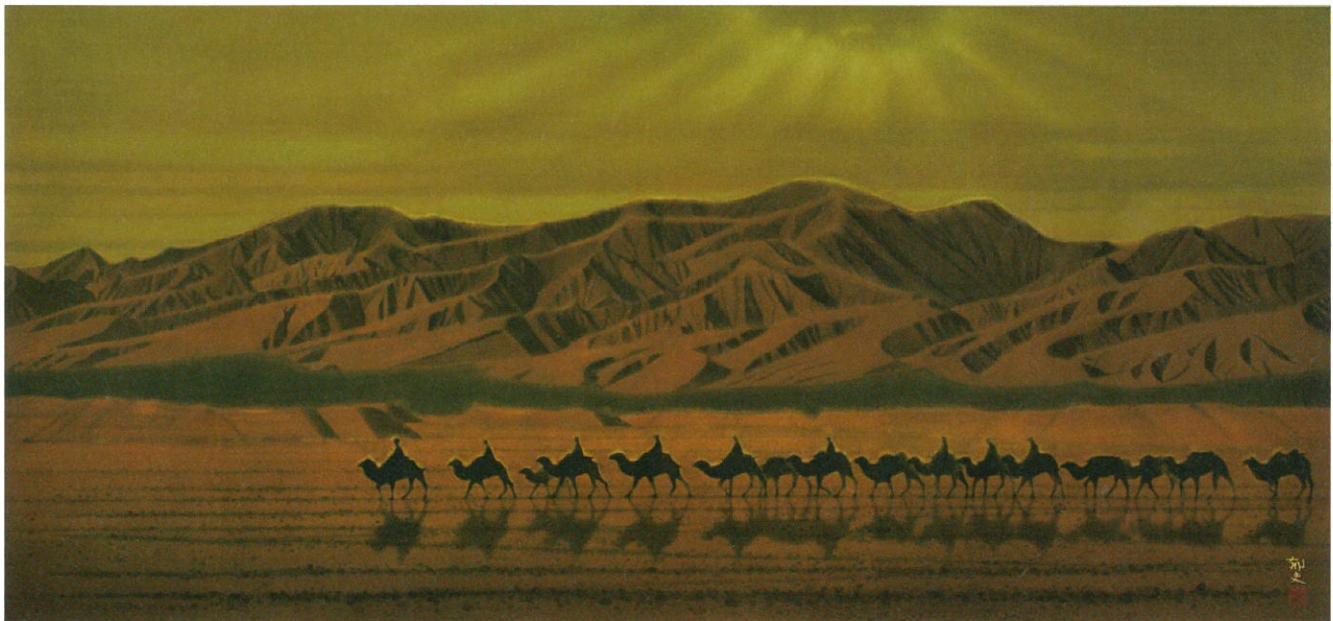
The Hirayama Ikuo

Silk Road Museum

News

No.20

平成27年6月発行



平山郁夫《絲綢之路天空》

1982年（個人蔵）

灼熱のタクラマカン砂漠をラクダの隊商が横切っていく。背景に見える山並みは、天山山脈の支脈、火焰山（かえんざん）の一端である。火州ともよばれるトルファンの夏は地表が70度以上にもなるという。大地にのびた一行の影は、まるで水面に映り込んだ鏡像のようであり、蜃気楼のようにも見える。“シルクロードの画家”という平山郁夫のイメージを普及させた80年代初頭の傑作であり、ラクダのキャラバンは平山絵画のシンボルとして定着した。

平山郁夫はその終生のテーマとなったシルクロードとラクダの隊商（キャラバン）について、以下のように語っている。

絲綢の道は、言葉の持つ美しい響きとは異なり、厳しい道である。シルクロードは、名もない人々が踏み固めた道だった。それは生活上、必要な道であり、人々は当時の貿易のために、炎熱の地を横切って旅をした。文化の交流に役立とうなどとは、彼らは思っても見なかったであろう。しかし、結果的には彼らによって文化が西から東へ、東から西へと運ばれた。死の恐怖を乗り越えていく彼らには、国境や言葉の違いや民族・人種の違いなどはまったく問題にならなかったに違いない。キャラバンを率いる商人もオアシスの住民も、お互いにお互いを必要とし合った。時には凶暴な盗賊が出没したり、大きな軍隊が押し寄せてきたけれど、それさえなければ、彼らの間には眞の友好関係が成り立っていたにちがいない。平和とは、そうしたところにこそ実現するのだとおもう。

自分の救いを求めて踏み出したシルクロードであったが、この道は私に平和という大きな問題を突きつけることになった。何度もシルクロードに立つ機会を重ねているうちに、私は世界平和を願う気持ちを強く持つように変わっていった。古代からシルクロードで展開してきた人々の交流こそ、現代世界に平和をもたらす規範ではなかったか。それ以来、私はいつも平和への祈りをこめて、画筆をとるようにしているのである。



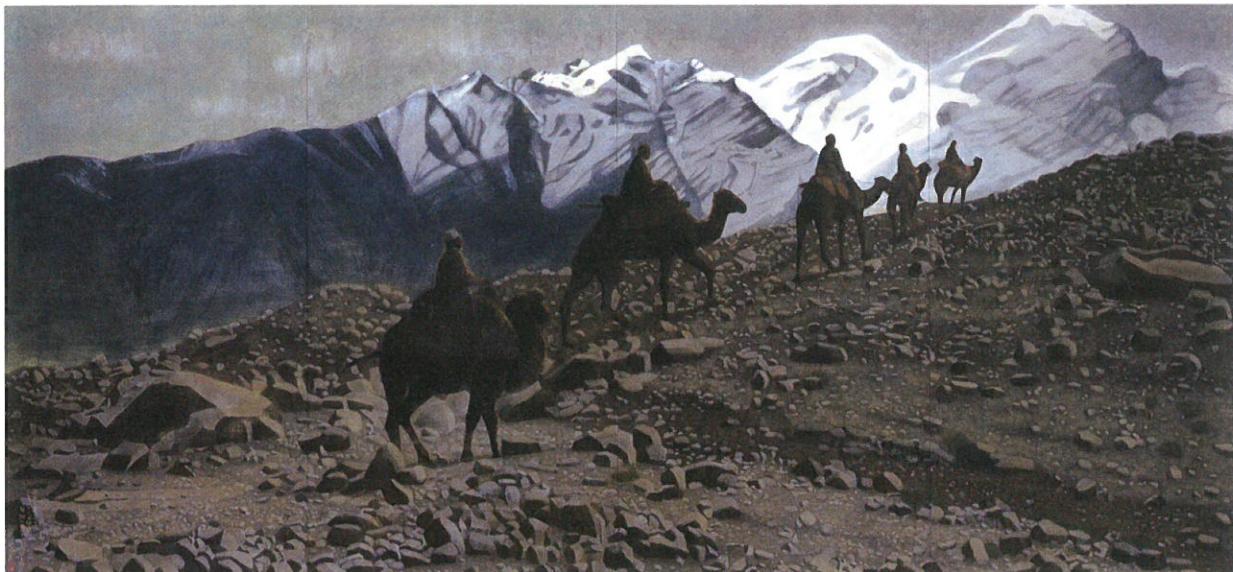
平山郁夫シルクロード美術館

展覧会紹介

The Hirayama Ikuo Silk Road Museum
Exhibition

「シルクロード幻想—絲綢之路を行くキャラバン」

2015年6月26日(金)～2015年10月26日(月)



《パミール高原を行く》2001年平山郁夫美術館蔵

「砂漠の舟」ともよばれるラクダはシルクロードを往き交う隊商に欠かせない交通手段でした。平山郁夫が終生描き続けたラクダのキャラバンは東西交易の象徴であり、未知の国々、異なる文化、そして人と人を結ぶ平和の象徴もあります。本展では、平山郁夫の初期から晩年の大シルクロード・シリーズまで、ラクダとキャラバンをテーマにした作品に焦点をあて、唐三彩駱駝俑などラクダに関する美術品とともに展観し、平山郁夫のシルクロードに対する想い、そして平和への願いを紹介します。

(表紙の絵《絲綢之路天空》も同展にて公開)

Information ●

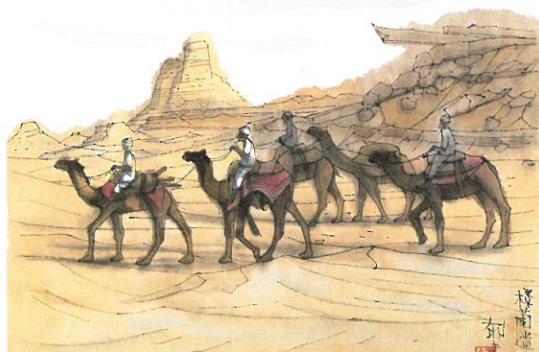
- ◆会期 2015年6月26日(金)～10月26日(月)
※火曜日休館7～9月は無休
- ◆開館時間 午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
- ◆観料 一般1200円／高・大学生800円／小・中学生無料
※障害者手帳をお持ちの方無料、介護の方1名まで600円
※70歳以上の方、20名様以上の団体 各100円割引
- ◆主催 公益財団法人平山郁夫シルクロード美術館、朝日新聞社
- ◆後援 山梨県、山梨県教育委員会、北杜市、北杜市教育委員会、八ヶ岳ジャーナル、NHK甲府放送局、山梨放送、テレビ山梨、FM富士、FM八ヶ岳
- ◆協賛 キリンビール株式会社

学芸員によるギャラリートークの開催

- 日時 ①9月19日(土)、
②10月17日(土)
14:00～
- 当館学芸員と一緒に鑑賞しながら、本展覧会の見どころをわかりやすく解説します。



《三彩駱駝・牽駝夫俑》8世紀中国(唐)



《樓蘭遺跡》1986年

次回展覧会予告

「ガンダーラー美しき仏たち」展

2015年10月30日(金)～2016年1月11日(月)

※年末12月25日(金)～31日(木)は休館

※新年1月1日より開館

仏教誕生の地インドでは、数百年にわたって仏の姿なき時代が続いていましたが、1世紀後半のガンダーラ(現パキスタン北西部)で仏陀像がはじめて制作されると仏陀の生涯を表した仏伝図も盛んとなり、弥勒菩薩、觀音菩薩、鬼子母神、執金剛など我々になじみ深い尊像も創出されました。この影響は中央アジアを経て東伝した仏教とともに各地に及び、至る所で仏像が作られる様になりました。ガンダーラの仏陀像は民族それぞれの理想の顔をもち、菩薩像は時代を映す若く美しい伊達男、イケメンをモデルとしています。

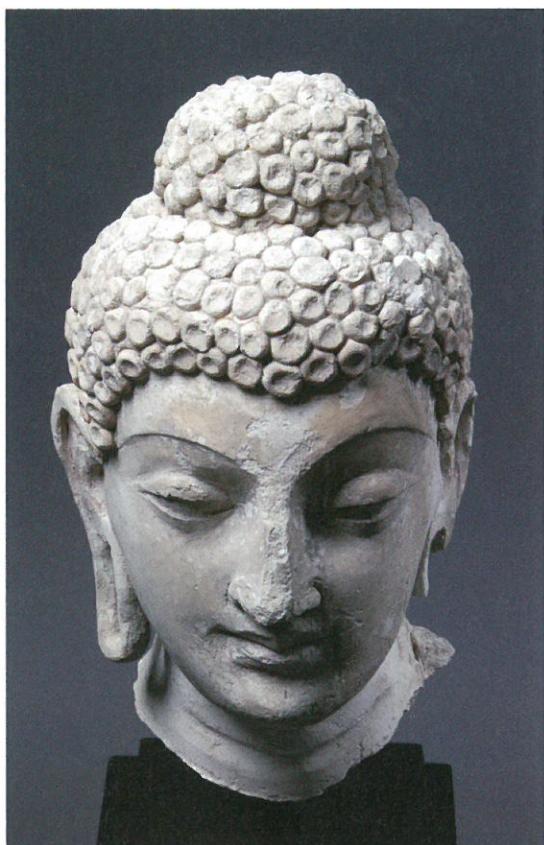
当館所蔵の、世界に名だたる「平山ガンダーラ・コレクション」の中から仏像と人びとの姿を中心に、ガンダーラの混淆した仏教文化を展覧します。



《觀音菩薩 交脚像》1-3世紀(片岩)



《菩薩像 頭部》2-4世紀(ストゥッコ)



《仏陀像 頭部》2-4世紀(ストゥッコ)

これからのイベント

Information

ワイン&クラフトフェスタ 2015

日時:2015年10月3日(土)、4日(日)

会場:平山郁夫シルクロード美術館 らくだ公園(屋上デッキ)

八ヶ岳地域のクラフト作家の作品の展示即売会や山梨地元ワインや葡萄の試食・販売、八ヶ岳のカレーや珈琲などをお楽しみいただけます。

葡萄が山梨に根付いて800年ともいわれ、甲州ワインは世界的にも評価が高まっています。美味しいワインと八ヶ岳の食を堪能し、葡萄やワインをテーマにしたクラフト作品を楽しむイベントです。



《ワイン&クラフトフェスタ2013》の様子

夢シルクロードを歩く

平山郁夫シルクロード美術館館長

平山美知子

私たちがシルクロードという言葉を知る様になったのはいつ頃だったのでしょうか。私の小学校、中学校の頃は、西遊記の中の孫悟空の活躍が目立っていて、御主人の三蔵法師の事はあとで知る様になりました。

平山と結婚して間もなく、平山が「ザイデンシュトラーセンって何かわかるか?」といいます。「何よ?」というと平山は得意顔で「ドイツの地理学者のリヒトホーフェンが云った言葉で、シルクロードの事だよ。」と云います。「シルクロードには普通の山や平地だけでなく、砂漠といって砂の山や谷があって馬など蹄の足だと砂にめりこんで歩けないのだろうな。駱駝の足先は平たくて砂の上でも平気で長い間歩けるらしいよ。駱駝は力もちで重い荷物も持って歩けるので絹の布でもいろんな宝物を積んでゆけたのさ。だから駱駝は砂漠の舟といわれたのさ。駱駝の瘤は脂肪だけど水を飲まなくても水分になるんだろうな。」

結婚間もなく、一万元の月給で六畳一間のアパートの頃でした。私たちのまだ見ぬ夢が際限なく拡がっていった日の事でした。ヨーロッパとアジアを結ぶ東西交通路を本当に歩いたのは1978(昭和53)年8月~9月第1回西域旅行の時でした。20年後の事です。



高昌故城



カシュガルのバザールで写生



万里の長城



クチャで訪問したご一家



昭和54年6月1日読売新聞

昭和53年の第1回西域旅行の時に撮影した写真が「よみうり写真大賞」を受賞

◆シルクロード研究会の報告

1月31日(土)、鎌倉市にある平山郁夫アトリエにて第5回シルクロード研究会を開催しました。今回は「東アジアの仏教美術」をテーマとし、当館のコレクションの中から中国・朝鮮半島の小金銅仏や、日本の平安時代の装飾経など約20点を取り上げました。これらについては学芸員・大塚裕一が近年の研究動向と、昨夏に行われた東京文化財研究所による科学的分析調査の結果も踏まえた解説を行い、参加者の皆様たちにとって新たな発見があったようです。解説の後は参加者全員にコレクションを間近に見てもらい、学芸員との質疑応答を繰り返しながら、普段の美術館などの鑑賞では味わうことのできない一時を得ることができました。当会は今後も様々なテーマで開催していきますので、HP、またはFacebookなどでチェックしていただけると幸いです。



コレクション紹介

①如来坐像

(五胡十六国時代、5世紀頃、総高8.7cm NR101367)



本作は五胡十六国時代に制作された中国最初期の金銅仏。いわゆる「古式金銅仏」と呼ばれるタイプでもあります。顔を見ると鼻は大きく、口元は笑みを浮かべているかのようです。衣は両肩を覆うタイプ(通肩)であり、背面は自然に流れています。腹部の前には手の甲を前方に向けて印相(禪定印)を結んでいます。両脚は着衣で隠れていますが、おそらく結跏趺坐(ヨガの坐法)で坐っています。台座の正面には一对の獅子を配され、その表情はいかにも愛らしいものです。こうした姿は古代インドのマトゥラ仏や、ガンダーラ仏を想起させるものといえるでしょう。保存状態も良く、鍍金(金メッキ)もよく残っており、その輝きは美しいものといえます。

②如来立像

(北魏時代[太和十三年・489年]、総高11.1cm NR102125)



本作は面長で肉付きが豊かな如来立像です。着衣は通肩にまとい、ザクザクした衣の表現が全面に施されています。両手は共に印相(左:与願印か、右:施無畏印)を結んでいると考えられ、左手についてはおそらくガンダーラ仏のように衣の一部を執っているかもしれません。光背に関しては頭光と身光を重ねる拳身光と呼ばれるタイプで、勢いよく刻まれた線状のものは火焰(かえん)でもあります。なお、台座には銘文があり、「太□十三年」と見えることから、おそらくは太和十三年(四八九)の制作と考えられます。

③紺紙金字經

(平安時代後期、本紙縦25.5cm、全長740.2cm NR100008)

本作は経巻の文字などに装飾を施した写経、すなわち装飾経であります。紺紙に銀界線を施し、本文は金泥で書写された大般若波羅蜜多經(卷第二百二十四)の内容が書かれています。表紙には宝相華唐草文、見返しには経典の内容をあらわした釈迦說法図が描かれています。本作が制作されたのは平安時代後期、仏教では末法の世でもありました。当時の貴族たちは多くの経典をござつて書写することで仏の加護を得、極楽に行くことを願いました。彼らは書写するだけに留まらず、美の限りを尽くしたことで装飾経は誕生しました。



◆賛助会がお陰様で10周年を迎えました。

会員の皆様に支えられ、美術館もこの10年大きく成長して参りました。

心より感謝申し上げます。ここに、この記念すべき年の会員の方々のご芳名を感謝を込めて掲載させて頂きます。(敬称略・会員番号順)

後藤 洋子
佐藤 美智子
後藤 大
大島 淳子
尾花 珠樹
矢崎 一久
竹内 耕一郎
大崎 文子
安藤 典子
輿石 奈か子
折笠 溪子
小田原 千佳子
鳥山 玲

鳥山 静子
渡邊 幸夫
山崎 泰子
金子 哲哉
磯山 文雄
加藤 千世子
上林 利子
平山 弥生
齊藤 昌子
山田 ミヤ子
矢代 若葉
湯浅 芳雄
松澤 昭史

久保 ツユ子
福島 規高
福島 徳佑
福島 由美子
福島 有季子
門田 よし江
高田 美知子
伊藤 新一
磯部 孝司
梅田 美千代
齊藤 幸江
加藤 峯子
北川 てる子

梅浦 田鶴子
小川 貞夫
戸田 博也
福代 茂
太田 美幸
市村 尚久
市村 保子
増井 幸子
小斎 富士子
小田 雅子
西河原 清一
篠原 万満
水代 彰子
寺本 崇子

岩田 記一
岩田 佐智子
平山 吉雄
平山 富美子
市村 保子
立山 潔
立山 礼子
荒垣 恒明
荒垣 愛香
小関 恒夫
小関 節子

永島 正子
永島 晶星
玉井 賢二
玉井 光代
金田 光司
金田 富美子
浅岡 正玄
浅岡 洋子
小谷野 匠子
小谷野 哲郎
小林 三千隆
小林 鏡子
渡部 研自

渡部 はる江
斎藤 建士
斎藤 真子
高橋 勝
高橋 節子
高徳院
絲綢社
丸栄堂
水澤工務店
甲府支店
パンの家エム・ワン

◆平成26年度 「地域と協働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業」 の活動内容のご報告

昨年度、文化芸術振興費補助金事業として取り組んできました「地域と協働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業」において、このたび当館の外国語(英語・中国語)パンフレットが完成しました。また、地域と連携し、美術館周辺の散策冊子や、八ヶ岳高原にある山梨・長野両県の美術館・博物館32館で構成する八ヶ岳ミュージアム協議会を紹介する外国語パンフレット(英語・中国語)が完成しましたのでお知らせします。今後、より多くの来館者の皆さま、外国人の皆さまにご利用頂ければ幸いです。



外国語案内(当館)
当館の美術館案内の外国語版(英語・中国語)の作成。
外国人観光客・外国人居住者に向けた環境を整備しました。
美術館の出入口の案内や諸注意も外国語表示付きの物に作り直しました



海外情報発信のための
当館の英語版
ホームページの制作
<http://www.silkroad-museum.jp/english/index.html>



八ヶ岳高原にある山梨・長野両県の美術館・博物館32館で構成する八ヶ岳ミュージアム協議会を紹介する外國語版パンフレット(英語・中国語)の制作。



美術館周辺を散策する冊子「富士山・甲斐駒・八ヶ岳など、名峰に囲まれた名水の里、小糸間高原を歩く」



○演奏会

2015年2月1日(日)

「北杜高校ギター部演奏会」

参加者:213名



○ワークショップ

2015年4月12日(日)

「絹糸を使った製本ワークショップ」(一般向け)

講師:高倉ゆみこ(製本工房インキュナブラ)

参加者:8名



○ワークショップ

2015年5月5日(火・祝)こどもの日

「組紐ストラップ制作ワークショップ」

(青少年向け)

講師:道明三保子(当館理事)

参加者:11名

○スクールプログラム

4月16日 甲陵中学校 1年生40名

(展覧会見学・絵手紙コンテスト参加)

5月 8日 竜王北中学校 2年生13名(展覧会見学)

5月14日 須玉中学校 2年53名(展覧会見学)

5月22日 長坂小学校 3年67名(展覧会見学)

第6回絵手紙コンテスト受賞者発表

6回目を迎えた昨年度の絵手紙コンテストは、321通のご応募をいただきました。

2015年4月、平山美知子館長をはじめとする審査の末、5名の方の入賞が決まりました。受賞者は以下の方々です。おめでとうございます。

○最優秀賞

中嶋 七海さん
(甲陵中学校1年生)

●優秀賞

大人部門 岡田 美土里さん
大人部門 松本 徳子さん
中・高校生部門 石黒 風子さん(甲陵中学校1年生)
幼・小学生部門 村西 輝彦くん(高根清里小学校3年生)



最優秀賞 中嶋 七海さんの作品

開館カレンダー

7 July							8 August							9 September						
SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
				1	2	3	4						1		1	2	3	4	5	
5	6	7	8	9	10	11	2	3	4	5	6	7	8	6	7	8	9	10	11	12
12	13	14	15	16	17	18	9	10	11	12	13	14	15	13	14	15	16	17	18	19
19	20	21	22	23	24	25	16	17	18	19	20	21	22	20	21	22	23	24	25	26
26	27	28	29	30	31		23	24	25	26	27	28	29	27	28	29	30			
10 October							11 November							12 December						
SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
				1	2	3	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5		
4	5	6	7	8	9	10	8	9	10	11	12	13	14	6	7	8	9	10	11	12
11	12	13	14	15	16	17	15	16	17	18	19	20	21	13	14	15	16	17	18	19
18	19	20	21	22	23	24	22	23	24	25	26	27	28	20	21	22	23	24	25	26
25	26	27	28	29	30	31	29	30						27	28	29	30	31		
展示替																				

6/26~10/26 「平山郁夫 シルクロード幻想—絲綢之路を行くキャラバン」展

10/30~12/24 「ガンダーラー美しき仏たち」展

※11/3は祝日のため開館

※7~9月は無休

※10/27~29は展示替えのため休館

※12/25~31、1/12~3/11は冬期休館

● …は閉館日です

賛助会 だより

賛助会会員募集

賛助会は美術館の活動を支援とともに、会員の皆様の交流をはかることを目的として発足いたしました。皆様から寄せられました会費は、展覧会の開催、講演会・講座の開催、国際交流、美術館の維持管理などに使用されます。賛助会員にはさまざまな特典(詳しくは美術館HPをご覧ください)のほか、交歓会等イベントも予定しております。皆様のご入会を心よりお待ち申し上げております。

◆会 費 個人会員…… 10,000円
家族会員…… 15,000円
法人会員…… 100,000円

◆受付期間 随時受け付け(毎年7月に更新。12~3月までご入会の方は初年度の年会費は半額、4~6月ご入会の方は翌年6月末日まで有効)。

◆申込方法 申込用紙に必要事項をご記入のうえ美術館にご郵送いただき、所定の銀行口座に会費をお振り込みください。申込用紙ご希望の方は、美術館HPからダウンロードするか、美術館にご請求ください。

お知らせ

美術館2階にカフェ
「キャラバンサライ」オープン

6月26日(金)美術館2階ラウンジにカフェ「キャラバンサライ」がオープンします。キャラバンサライとは、ペルシア語で「隊商宿」を意味します。シルクロードを旅する駱駝の隊商は、砂漠や山岳地帯を移動した疲れを、キャラバンサライで癒したことでしょう。3方がガラス張りの店内からは、当館の緑の庭園「らくだ公園」をはじめ、八ヶ岳や南アルプスの眺めを楽しむ事もできます。来館されたお客様だけでなく、らくだ公園や隣接する甲斐小泉駅から自由に入出しができ、カフェのみのご利用やテイクアウトも可能です。みなさまのご来館を心よりお待ちしております。



平山郁夫シルクロード美術館

平山郁夫シルクロード美術館ニュース 第20号 平成27年6月発行

発行 公益財団法人平山郁夫シルクロード美術館

〒408-0031 山梨県北杜市長坂町小荒間2000-6 Tel 0551-32-0225

URL <http://www.silkroad-museum.jp>